

要支援1、2（50万人）の人を訪問介護と通所介護の保険給付から外す介護保険改題案に、サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）の入居者から、「住宅に併設されている介護保険サービスが使えなくなるのは不安」との声が上がっています。全国の自治体で、同居者が一番多く建設されている札幌市を訪ねました。

## サービス付き高齢者住宅

### 政府が推進しているのに

#### 札幌に見る

札幌郊外の同市厚別区。1区近い積雪に覆われた古い団地群のある丘陵地の一角に、サ高住「ほろか」があります。木のぬくもりを感じる住宅です。



#### 交流も楽しみ

サ高住は、国が民間事業者などに補助金を出し整備を推進。札幌市内には204戸建設されています。「ほろか」は高齢化が進行する同区で、社会福祉法人・協立いしくしみの会（全日本民医連加盟）が2年前に開設

# 要支援1、2の保険外し 入居者のデイ利用奪わないで

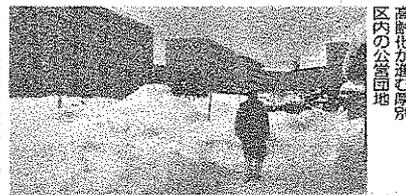


「ほろか」で暮らす（左から）三浦さん、村本さん、町田さんと、管理員の石山さん、町田さんのクマメシヤの百合園さん（札幌市）

しました。1階にはデイサービス（通所介護）と通いを中心に訪問や宿泊サービスも利用できる小規模多機能型住宅介護が併設されています。法人が一部費用を負担し、生活保護受給者でも入居可能な料金設定です。

サービス付き高齢者向け住宅。政府が、障がいのある高齢者向けに整備するバリアフリー住宅です。サービスは安否確認と生活相談が必須です。通所介護や訪問介護、訪問看護、診療所などの併設が推奨され、入居者はこうしたサービスを利用します。しかし、重層化した場合、利用できるサービスが限られ、施設の代わりになり得ないとの問題点が指摘されています。2011年から建設が始まり昨年末現在、約18万5400戸あります。

規模多機能型住宅介護が併設されています。法人が一部費用を負担し、生活保護受給者でも入居可能な料金設定です。



厚別区北方道で開発区内の公園団地

40人の入居者の平均年齢は83歳。その25%が要支援1、2です。

「ほろか」で暮らす町田也さん（81）、村本サタ子さん（84）、三浦容子さん（88）は要支援1、3人とも併設のデイサービスを通り利用しています。筋トレ、手芸、書道、新聞コラムの書き写しなど好きなメニューを選んでいます。

「デイがあるとお前日から長い意味で緊張感があります。入居者以外のお友だちとの交流も楽しみ」と町田さん。本格的な手芸作品を手がける村本さんは「デイの日は一日が短く感じます」と。三浦さんは「おとなの塗り絵」に夢中。洋世絵や静物、配色に色彩センスが光ります。

#### 絶対に残して

制度改題で要支援者のデイサービスがボランティア任せの自治体事業に丸投げされることに、3

人とも不安を抱いています。

「デイには看護師さんがいて血圧を測ってくれり、調子の悪い時は相談に乗ってくれ安心です。ボランティアさんではさういうわけにはいきません」。町田さんは断言します。

三浦さんは「雪の中、ボランティアのいる福祉センターまで歩いて行きます。送迎はあるんですけど、どういふかあります。入居時には保険から外れるなんて予想していません。デイを利用できなくなると確実に弱ると感じます。週一回のデイは絶対に残してほしいです」と村本さん。2人と

1/24 旗

#### も大きくうなずきました。経営陣に

厚生労働省は、自治体事業になってもボランティアによる支援とは別に、専門スタッフによる既存の通所介護も残す方向と説明しますが、事業所への報酬は現行より下げると明言しています。ほろかの石山園管理者は訴えます。「サ高住は、住宅の収入だけでは採算がとれません。併設の介護保険サービスを利用していただくことが必要と成り立つ仕組みを政府は提唱し、建設を後押ししてきました。介護報酬が下がると経営はピンチです。要支援者の保険外しはサ高住を整備してきた政府の方針とも矛盾します。撤回を求めたい」